

巖石間、不假水土、或寄樹楹上、或以棕皮裹之、懸之又、有風蘭、葉比蘭較長、香如山奈苗、香、蔑竹爲盆、懸挂風前、極易蕃衍、俗皆尙蘭、號爲孔子花、

粟蘭、一名芷蘭、葉如鳳尾、花如珍珠、蘭又有松蘭、竹蘭、棒蘭、狀如珊瑚樹、綠色、無葉、花從極間出、似蘭較小、○中略

佳蘇魚、削黑鰻魚肉、乾之爲腊、長五六寸梭形、出久高者良、食法以溫水洗一過、包蕉葉中、入火略煨、再洗淨、以利刃切之、三四切皆勿令斷、第五六七始斷、每一片形如蘭花、漬以清醬、更可口、

風俗

〔國朝舊章錄十〕琉球國之事略

東山殿の頃より、彼國には我國の假名字を用ひしと見へ、又其國の人共、我國の倭歌を能するもの少からず、琉球人の和歌いくらも見へたり、能よめる者有、

山川等の名も人の名も、皆々我國の詞なるも多く、殊に我國の神々を祭れる故蹟、いくらも世に聞えたり、されば彼國の始祖、我國の人たりし事は一定也、但爲朝の後と申は如何有べき、すべて彼國の事共、詳ならぬ事ども多し、可々翁私曰、琉球は其人品柔和にして、名髮に油を塗、容貌我國の人よりも麗く、最弱國の風俗也、伎藝を嗜む國にて、中にも碁局の術を善くす、前々我國江來聘の度毎に、彼國の棋手に長するもの、其使に伴來て、我國の棋家に便りて、江都の殿中に於て相對して手譚す、其勝劣を試たる上にて、我國の妙手より或は先手を著し、又は二子を著するの許狀を授く、所謂碁に先ん二つ置の事也夫棋局の遊は、其先中華に始りて、伎藝に於る最久し、然るに中華には此術衰て、今万国の中に我朝ほど是に精きは無く、琉球次之、其他に有る事を不聞、是故に琉球より中華へ聘問の折柄は、究て中華の國手迎えて、琉球の許可を得るとかや、是にて此術の我國より遼に劣たる事を想ふべし、其外琉球の事を記せし、定西物語と云小冊の我櫃中に在しを、粵に書加んと搜之共紛失せり、

〔中山聘使略〕和歌